

肥料の種類と与えるタイミング

肥料の種類

有機質(自然物)

動植物からつくられた肥料で、油かす、米ぬか、草木灰、腐葉土、魚粉、骨粉、堆肥などが原料とし、チッソ、リン酸、カリウムといった3大栄養素に様々な養分も加えています。有機肥料は、緩効性肥料が多く、元肥(もとごえ)、寒肥(かんごえ)などに使用されます。



無機質(化学合成)

化学合成した単独成分の肥料をバランス良く混ぜ合わせ、粒状や錠剤、液体などに加工した肥料です。有機肥料よりも速効性があり使いやすく、プランター栽培に適しています。



肥料の与え方とタイミング

元肥(もとごえ)には緩効性肥料が効果的

元肥は植えつけ時の肥料のことで、効果が持続する緩効性肥料を使用します。チッソ(N)、リン酸(P)、カリウム(K)の3大栄養素を同量ずつ配合した物や、花つきが良くなるリン酸を多く配合した物などが適しています。培養土を使用する場合は元肥は含まれています。

元肥を施すときの注意点

植物の根が肥料に直接接触すると、害を生じることがあるので、肥料の層の上に少量の土をかぶせた状態で、植物を植え付けると良いでしょう。

追肥(おいごえ)は生育具合を見て定期的に

追肥は植物の生育に合わせて、必要な栄養を補うために追加で施肥することです。すぐに効果が現れる化成肥料や速効性の液体肥料を一般的に利用します。液体肥料の場合は1~2週間程度、置き肥の場合は1~2ヵ月程度、効果が持続します。



お礼肥(おれいごえ)は速効性肥料を施す

お礼肥とは、花が終わった後、消耗して弱った植物に栄養補給を与えて、回復するために与える肥料のことです。見事な花を咲かせてくれた感謝(お礼)の意味を込めて付けられた名前です。株を充実させる役割をもち、速効性の化成肥料を使います。一年草は植え替えるので必要はありません。